

74 オオハム

(アビ目)

Gavia arctica

兵庫県ランク: 調

繁殖個体群:無 越冬個体群:調 通過個体群:調

環境省ランク:

種の概要

ヨーロッパ中部からシベリア、モンゴル北部、オホーツク海沿岸、カムチャツカ、アラスカ西部などの北極から温帯北部で繁殖する。繁殖後は温帯の海域に渡り、越冬する。日本には秋に渡来し、北海道、本州、四国、九州の沿岸海域などで越冬する。外海や内海に生息し、稀に内湾、河口、沿岸近くの湖沼などにも飛来する。潜水して魚類を採食する。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、利尻島、焼尻島、天売島、本州、佐渡、舩倉島、隠岐、竹島、四国、九州、対馬、壱岐、男女群島、伊豆諸島、奄美諸島、オホーツク海、日本海北部、日本海南部、太平洋北日本沖、太平洋本州中部沖、太平洋南日本沖、伊豆諸島沖、東シナ海

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

神戸市、姫路市、★尼崎市、明石市、★西宮市、★洲本市、★伊丹市、★豊岡市、加古川市、高砂市、★南あわじ市、★淡路市、たつの市、★稲美町、★播磨町、香美町

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	特殊 休息 環境・	局地的 繁殖	希少
○	○								

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では主に11-翌5月に記録がある。かつては瀬戸内海では10羽から70羽前後の越冬群が普通に見られていた。1970年代には越冬例も記録されている。しかし、近年は減少著しく、最近では単独の個体が瀬戸内海や日本海の沿岸で稀に観察される程度である。海上での生息状況はよくわかっていない。重油や化学物質の流出による被害で、海上の群れが大きな打撃を受けることがある。

保護上の留意点

生息海域の海洋環境の保全が重要。また、漁網やはえ縄などによる捕獲の被害に遭うことがあるので、地域によっては漁業者との調整が必要。併せて、生息海域の海洋環境の保全が重要。特に、重油や化学物質の流出などによる海洋汚染は、その生存に致命的な結果をもたらすため回避する努力が必要。



写真提供：鳥田陽子

(性別：不明)



写真提供：出口敦司

(性別：不明)